算数科の評価
～ここが変わる　こう評価する～

単元名　7．わり算を考えよう［あまりのあるわり算］　　第３学年　授業時数８時間

【単元の目標】わり切れない場合の除法や余りについて理解し，計算することができるようにするとともに，数学的表現を適切に活用して，除法の意味や計算の仕方を具体物や図，式を用いて表す力を養うとともに，問題場面における数量の関係に着目し，数理的に処理した過程を振り返り，今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の観点別評価規準】　　↓ この３つは単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
わり切れない場合の除法の計算や余りと除数の大小関係について理解し，それらを活用して数量の関係をとらえることができる。	数量の関係に着目し，わり切れる場合とわり切れない場合の除法を統合してとらえ，除法の意味や計算に成り立つ性質について考え，説明している。	日常生活の問題を解決した過程や得られた結果を吟味したことを振り返り，数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

【内容のまとまりごとの観点別評価規準】　　↓ この３つは具体的な内容のまとまりごとの評価規準

① 包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場面について理解している。 ② 除数と商が１位数の除法の計算が確実にできる。 ③ 割り切れない場合に余りを出すこと、余りは除数より小さいことを知っている。	① 除法が用いられる場面の数量の関係を具体物や図などを用いて考えている。 ② 余りのある除法のあまりについて、日常生活の場面に応じて考えている。	① 除法が用いられる場面の数量の関係を具体物や図などを用いて考えようとしている。 ② 除法の場面を見の周りから見つけ、除法を用いようとしている。

時	学習活動	評価の観点と方法の例		
		知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 2 3	・14÷3 の答えの見つけ方を考える。 ・計算結果を式に表すと 14÷3＝4 余り 2 となることを知る。 ・わり算には，わり切れるときとわり切れないときがあることを知る。 ・余りと除数の関係を理解する。 ・等分除の計算についても包含除の計算の方法を基に考え説明することができる。	・既習の除法の計算方法を用いて，わり切れない場合の除法についても計算することができる。【観察・ノート】 ・余りが除数より小さくなることを理解し，計算することができる。【観察・ノート】	・わり切れない場合の除法の計算の仕方について，既習のわり切れる場合の除法を基に考え，図や式を用いて説明している。【観察・ノート】	
4	・わり切れない場合を含む除法の答えの確かめ方を考える。	・わり切れない場合の除法の答えの確かめ方を理解している。【観察・ノート】	★わり切れない場合の等分除の計算の仕方を，既習の等分除の計算の仕方を基に考え，具体物や図，式などを用いて説明している。【観察・ノート】	
5	・わり切れない場合を含む，除法の計算ができる。	・わり切れない場合の除法の計算の商や余りを求めたり，確かめたりすることができる。【観察・ノート】		
6	・題意をとらえ，23÷4 と立式し，計算して答えを求める。 ・計算では 5 余り 3 だが，答えを 5 としてよいか話し合い、答えは商＋1 になることをまとめる。 ・題意をとらえ，30÷4 と立式し，計算して答えを求める。 ・計算では 7 余り 2 だが，商をそのまま答えとしてよいか，それとも商＋1 とすべきかを話し合う。		★商や余りの意味に着目して，問題に応じた商の処理の仕方を考え，説明している。【観察・ノート】	❤計算した結果を吟味したことを振り返り，学習に生かそうとしている。【観察・ノート】
7	・「たしかめよう」に取り組む。 ・「つないでいこう算数の目」に取り組む。	・基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】	・数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら，単元の学習を整理している。【観察・ノート】	単元の学習を振り返り，価値づけたり，今後の学習に生かそうとしたりしている。【観察・ノート】
8	・学習内容の定着を確認する。（評価テスト）	●ペーパーテスト	・ペーパーテスト	❤単元の振り返り【ペーパーテスト記述・単元のノート分析】

「知識・技能」 主に●の部分で評価する。

ペーパーテスト ＋ 適用問題からの情報を加味

A（3） 2．5＜平均値

B （2）1．5≦平均値≦2．5

C （1） 平均値＜1．5

この基準は、多少前後する（学校もしくは、学年等で決めていく）

「思考・判断・表現」 主に★の部分で評価する。

★第４時・・・B「等分除の場面でも割り切れない場合の除法があることをブロックや図を使って表現している」

Aと評価してよい状態・・・・・「包含除との違いを記述したり、割り切れないという割り算があることを表現している」

Bと評価してよい状態・・・・・「友達の発表や説明を聞いて、それを受け入れる発言をしている様子が見られる」

「主体的に学習に取り組む態度」 主に♡の部分で評価する。

・グループ活動や話し合いの様子を記録する。

・振り返りカード、学習感想等の記述をノートを集めて確認する。

Aと評価してよい状態・・・・・・友達のよりよい考えや、表現に書き換えようとしていたり、友達と比較して、考えのよさに気づいたりすることができ、自分の考えに生かそうとしている状態。または記述。

（例：ぼくは○○さんの考えが、すごいと思いました。船に乗るのに余りが出たら、もう一隻船が必要だということの説明を聞いて、なるほど、と思いました。だから、人を乗せる時などの問題では余りが出たときは＋１をすることに納得できました。

ただあまりいくつ、と書くのではなく問題に合わせた答えの書き方を工夫することが大切だと思いました。）

Bと評価してよい状態・・・・・・・・あまりのある問題で、図や言葉を使って、考えを自分なりに表現しようとしている状態。または記述。

（例：あまりのある問題では、＋１をすることがあると分かりました。）

→結局それかあ、という声が聞こえてきますが、これを、自分たちの授業改善につなげていく必要があります。

まずは、簡単でよいので、単元に１回は、この項目について、記録をとり、手書きもしくは、ベタ打ち等の言葉で、それを残していく必要があります。

そう考えると、先生方は、

①昨年度継続して書かせてきた、学習の振り返りを毎時間、簡単でよいので書かせることの継続。

②「主体的に学習に取り組む態度」の評価がしやすい場面では、教師が、意図して「今日は友達の考えから学んだことを書きましょう」とか「今日の○○さんの考えがすごい！と思った理由を振り返りに書きましょう」などと、投げかける必要があります。

昨年作った「ティーチャーズワード」を使いましょう。あれ、とってもいいです。

③「主体的に学習に取り組む態度」の評価を記述した記録を残す。 この３つをお願いします。